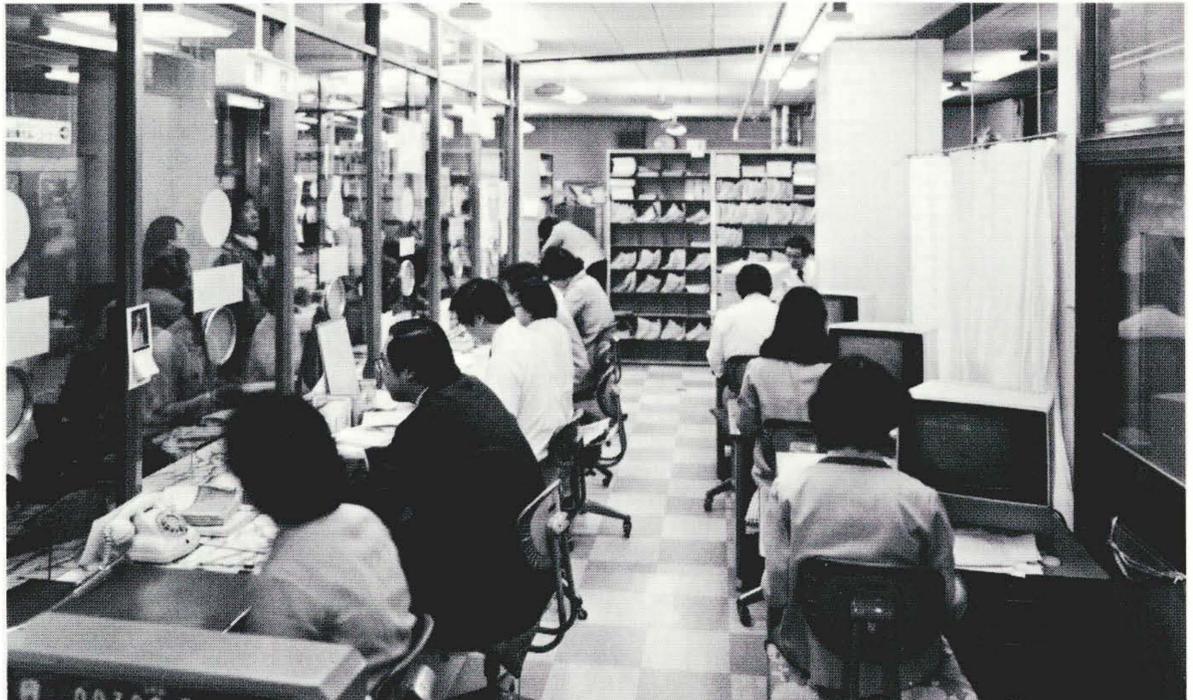


病院情報ネットワークシステム

病院で日常扱っている情報は、診療にかかわるものをはじめ、会計・薬品などの管理、保険請求事務など多岐にわたり、その量も莫大で、処理には大きな労力、時間が使われている。したがって、この病院内の情報処理を合理化するためのシステム化も急速に進められており、日立製作所では、かねてから医療システム化に取り組み、大小のシステムを開発してきた。

また今日では、医療のシステム化も一病院単位にとどまらず、総合化、ネットワーク化が行なわれている。すなわち、コンピュータ間を通信回線などで結合し、データの流通を図り、ネットワークとしての機能を発揮するのがネットワークシステムであるが、ここでは、岩手県で開発された、大規模な病院情報ネットワークシステムを紹介する。

本システムは、県立28病院を盛岡のセンターに設置したHITAC 8250装置2台に専用通信回線で接続し、各端末にH-9415、H-9385のビデオデータターミナル、プリンタを数十台設置したもので、オンラインによるネットワークシステムを構成している。



本システムの機能は、オンラインによって、

- (1) 患者情報登録
- (2) 窓口会計
- (3) 未収金
- (4) 病名

などの処理を行ない、更にバッチによって、

- (1) 診療報酬請求
- (2) 病名
- (3) 統計

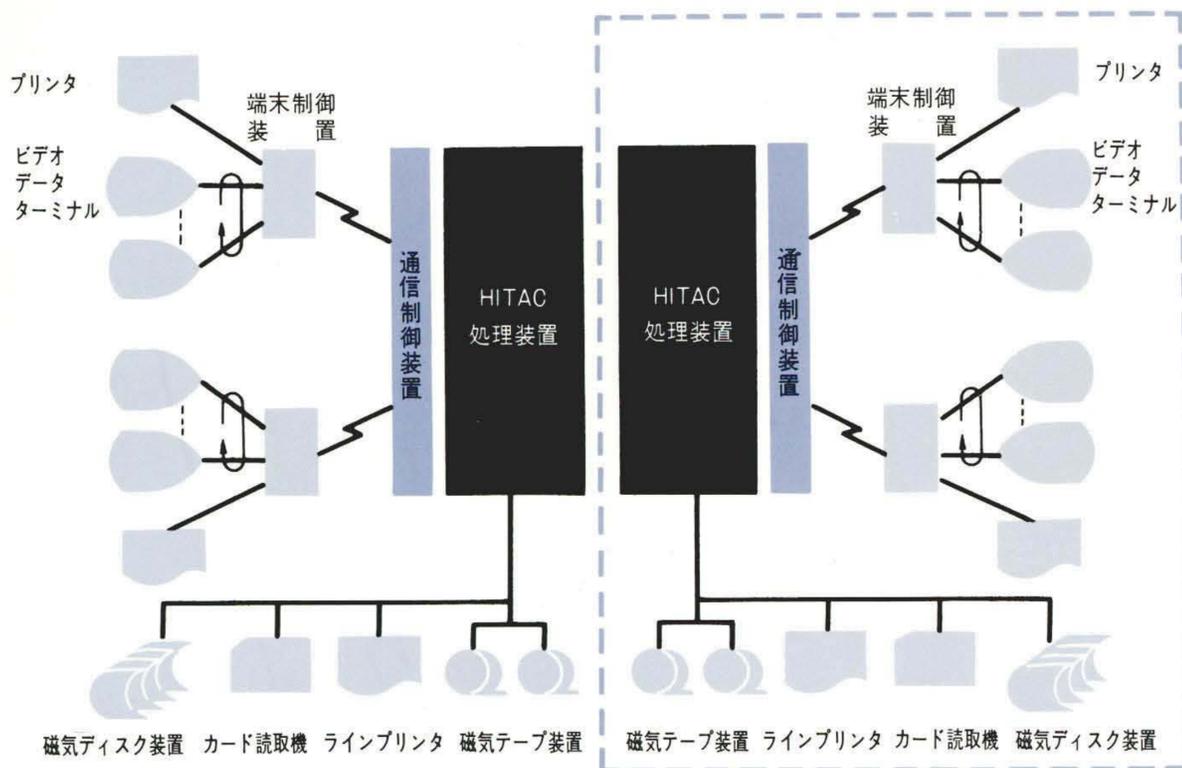
の各処理を実施する。また、本システムは、病院情報が持つ可変性などに十分対応できるように、次のような特長を持っている。

(1) プログラムの徹底したモジュール化により、メンテナビリティ、アベイラビリティを高くした。

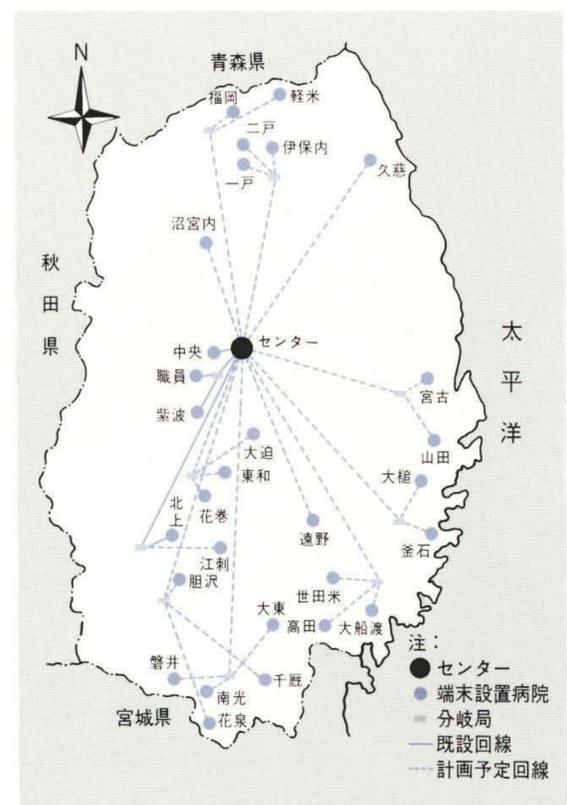
(2) モジュール化によって、他病院にも適用できる。

(3) ビデオ端末の採用により、操作性を向上した。

岩手県では、本システムの導入によって、県立病院でのデータ処理の省力化、迅速化、正確化などに大きな期待を寄せており、その運営の効果は影響するところが大きく、他府県でもこのようなシステムの適用が広まるものと思われる。



機器構成



回線網予定図